

学校経営方針

中野区立第七中学校長

池田 俊一

I 学校経営方針策定のテーマ

中学校の3年間は、人生において大変影響を受けやすい時期です。なんでも吸収できる時期であり、この時期に「頑張る力」「よりよく生きようとする力」をつけさせることが学校の役割であるといえます。

私は、以下のような方針をもち第七中学校の学校を経営していくものです。

- 1、 知識を得ることによって豊かな人生を開く。
- 2、 人と人との温かいコミュニケーションこそが人を成長させる。
- 3、 何事にも取り組む健康な心と体をもつ。

学校は、生徒にとって一番楽しいところでなければなりません。学校は、友達や先生と触れ合う中で頑張れる、自分の良いところがたくさん出せる、友達や先生からたくさん学び、自分が成長していくことが実感できる、そして、その原点である七中のために頑張りたいという気持ちが湧いてくる、こんな学校にしていくように経営します。「笑顔とやる気いっぱいの中」「生徒自らが常に鍛え続ける七中」の合言葉を中心に七中は最高だと胸を張って言える生徒であふれる学校にしていきます。

また、一昨年度70周年を迎え、絆を深めた地域との関わりを生かし「地域と歩む第七中学校」としてさらに努めていきます。

II 目指す生徒像

- 自分の良さを見だし、自ら律し、学び、他に尽くす生徒
——やる気・思いやり・生きる力——
- 日本語を大切にし、明るく爽やかな挨拶のしっかりできる生徒

III 目指す学校像

- 生徒一人ひとりが楽しく登校し、学ぶ喜びを体得できる学校
- 生徒一人ひとりに確かな学力と豊かな心を育む学校
- 生徒一人ひとりの良さや活気が満ちあふれる心豊かな学校
- 生徒や保護者・地域社会からの信頼の厚い学校

IV 目指す教師像

《生徒・保護者から信頼される教師》

- ・ 生徒一人ひとりとふれ合い、良さを見だし、育てる教師
- ・ 保護者、地域社会と連携し、共感的に教育を進める教師
- ・ 服務規律を遵守する教師
- ・ 学校及び自己の課題解決を目指し、研究し、実践する教師
- ・ 危機意識を常にもち、組織体として機能する教師
- ・ 報告、連絡、相談を大切にする教師
- ・ 常にコスト意識と事案決定意識をもって職務を遂行する教師

V 学 校 教 育 目 標

- 一. すすんで学ぶ人になろう
- 一. 心ゆたかな人になろう
- 一. 社会につくす人になろう

VI 学校教育目標を達成するための教育推進の重点

1 「確かな学力」を身につけさせる学校を目指す（生徒自らが鍛える学校）

今年度の重点目標：①生徒一人ひとりの「学力」を確実に伸ばす
②家庭学習の定着を図る

（1）教科指導の充実を図り、生徒の学力を伸ばす

- ① 二学期制を生かした学習指導計画や評価の工夫・改善に努め、生徒一人ひとりの良さや可能性を伸ばす。
- ② 授業において基礎・基本の定着を図ると共に発展的な学習を通し、生徒一人ひとりの力を伸ばす。
- ③ 数学、英語で習熟度別少人数指導を行う。
- ④ 第2土曜日(今年度10回)に授業を実施する。
- ⑤ 授業研究を行い、生徒の学習意欲の向上を目指す。
- ⑥ ICTを活用した授業を推進する。
- ⑦ 理科への興味関心を高めるため
 - ・ 外部講師による授業を行う。
 - ・ 自由研究を行わせ、優秀な作品に「七中サイエンス賞」を授与する。
- ⑧ 全教科を通し、「読む」「書く」に力を入れ、読解力等を育む。
- ⑨ 学習の振り返りを定期的に行わせ学習方法を学ばせる。
- ⑩ オリンピック・パラリンピック教育を年間指導計画に基づいて実施し意識の定着を図る。
- ⑪ 平成30年度オリンピック・パラリンピック教育アワード校として学習した「多様性を学ぶ」への取り組みを発展させる。
- ⑫ **特別の教科 道徳を計画的に実施し考え議論する道徳を実践する。**

（2）家庭学習を定着させる

- ① 各教科において、宿題を出し学んだことの定着を図る。
- ② 1年：1時間、2年：2時間、3年：3時間を実質的な家庭（授業以外）での最低の学習時間と意識させ強化していく。

（3）読書指導を充実させる
「七中の100冊」を定着させる

- ① 本校選定図書である「七中の100冊」を読み切る生徒を育て、日本語を大切にする生徒の育成を目指す。
- ② 全校一斉の「朝読書」を通し、読書に親しませる。
- ③ 委員会活動の充実に努める。
- ④ 図書室利用生徒の増加（貸出）を図る。
年間貸出4,000冊を目指す。（昨年度は3266冊）

- (4) 「総合的な学習の時間」を通して学ばせる
- ① 全体テーマ「共に生きる」を深めるため各教科で学んだことを生かし、自らの力で興味・関心に基づく課題を追求し、まとめ、発表する力を育てる。
 - ② 多くのふれ合い体験や課題追求、発表を計画的に実施させる。
 - ③ 平成30年度オリンピック・パラリンピック教育アワード校として取り組んだ、障害者理解、豊かな国際感覚、ボランティアマインドの育成を更に深化していく。
- (5) 補充学習教室等を充実させる
- ① 教師と生徒とのふれ合いの時間を確保し、学習への興味、関心、意欲を育てる。
 - ② 教師による補充教室や質問教室を長期休業日などに実施する。
 - ③ **中野区任期付短時間教員やボランティア等広く活用し、補充教室や質問教室など放課後学習教室を平日実施する。**

2 体験を通し、豊かな心を育てる学校を目指す

今年度の重点目標：①明るく爽やかな「あいさつ」を身に付けさせる
②防災教育の充実

- (1) 生命の尊さを学ぶ学校
- ① 防災教育・安全指導の実施
小中合同の引き渡し訓練、地域との合同防災訓練等
 - ② 健康教育の実施
(食育、性教育、喫煙防止、薬物乱用防止、熱中症対策、食物アレルギー対策など)
 - ③ 普通救命講習の実施(3学年)
 - ④ セーフティ教室の実施(年1回)
- (2) 人権を尊重する学校
- ① 『「いじめ」は絶対に許さない』との一貫した姿勢を全教職員、全生徒がもつ。そして、早期発見、早期対応に努める。
 - ② 学級活動や学年活動などを通し、望ましい人間関係を築く。
 - ③ 法務省主催「人権作文コンクール」への参加(2学年)を行う。
 - ④ 前年度「多様性を学ぶ」から学習した人権感覚を高め他者を理解する気持ちを深める。
- (3) 特別の教科 道徳授業の向上
- ① 要としての道徳授業を年間指導計画に従い完全実施する。
 - ② 学年としての研究・交流を通じた取組みを実施する。
 - ③ 道徳教育推進教師を中心に、資料の収集に努めると共に、**小中連携教育協議会で取り上げる。また授業観察を教員同士で行い質的な向上を図る。**
 - ④ 道徳授業地区公開講座を実施する(年1回)

- (4) 学校行事や学年行事、総合的な学習の時間、部活動でのふれあい体験の充実
- ① 宿泊体験や職場体験（3日間）を通し、多くの人々とのふれあいを充実させる。
 - ② 地域の人々や自然、公共施設などを通じた体験的学習を推進する。
 - ③ 生徒のニーズに応じた部活動の継続に努める。
 - ④ 周年行事への参加を通じて育った「学校を愛する気持ち、地域に感謝する気持ち」を更に定着・深化させる。
 - ⑤ **儀式的行事の意味を理解させ厳粛で清新な雰囲気味わわせる。**
- (5) 学級を基盤とした温かい気風や行動の構築
- ① 全ての学習の場を通し実施する。
(学校行事に向けての取組や自主学习など)
 - ② 班、係り活動の場を通した取組を積極的に行う。
 - ③ 一人ひとりが自分のよさを発揮し進んで行動できるとともに友達のよさを発見し友達を大切にすることを育てる。
 - ④ **クラスを基盤とした温かい集団を育て、不登校生徒0を目指す。**
- (6) 生徒の自主的・自立的な活動の育成
- ① 生徒会、学年活動を通した取組み（あいさつ週間など）
 - ② **地域との連携を深め、情報を発信することでボランティア活動の実践環境を広げる。**
- (7) 教育相談体制の充実
- ① スクールカウンセラーや心の教室相談員、巡回相談員との連携・協力を図る。
 - ② 校内委員会（教育相談）を時間割内に設定し、共通理解・共通実践に繋げる。
 - ③ 関係機関との連携・協力を図り、障害者理解を深化する。
 - ④ **学校体制でいじめに対応し、「いじめ0件」を目指す**
 - ⑤ **スクールカウンセラー、心の教室相談員と連携し、不登校生徒への対応を円滑にし居場所づくりに努める。**
 - ⑥ スクールカウンセラーと1年生全員との面接を実施する。
- (8) 特別支援教育の推進
- ① コーディネーターを中心に校内委員会（特別支援教育）を設置する。
 - ② 校内委員会を時間割内に設定し、共通理解・共通実践に繋げる。
 - ③ 本校D組との交流、連携を**広げ障害者理解を深める。**
 - ④ 副籍制度の活用を努める。
 - ⑤ 生徒・保護者・地域に対し特別支援教育の理解を深める場を設ける。
- (9) 心豊かな環境づくりに努める学校
- ① 校舎内外の美化に努め常に美しい学校をつくる。
 - ② 一年中花のある美しい学校づくりに努める。
 - ③ 明るく爽やかな挨拶が交わされる学校づくりに努める。(小中合同での挨拶運動)
 - ④ 歌声の響く学校づくりに努める。
 - ⑤ 掲示物の工夫に努める。
 - ⑥ 施設・設備の物的環境の整備に努めると共に言語・態度等の人的環境をさらに良くする。

- (10) 環境にやさしい学校
- ① 限られた資源の有効活用を図る。
 ・ゴミを極力減らす ・CO2削減への取り組み
 ・ゴミの分別
 ・紙、水、電気、ガスなどの節約に努める
- (11) 生徒作品が常に掲示されている学校
- ① 掲示コーナーなどを設ける。
 ② 教科や総合的な学習などにおいて作成した作品を廊下等に掲示する。
 ③ 個々の作品の制作過程における努力や思いを表示することで、作品を理解し大切にすることを育てる
- (12) 体力向上と食育に努める学校
- ① 本校の体力向上プログラムに基づく指導を計画的に行う。
 ② 給食週間を設け、食育に関する放送等を実施する。とともに残菜を減らす意識を高めさせる。
 ③ 学校医・保護者等による学校保健委員会を開催する
 ④ オリンピック・パラリンピック教育を通し体力向上と食育との関係の知識を得る。

3 自己有用感を育み、母校への誇りをもたせる学校を目指す

今年度の重点目標：①生徒一人ひとりに自信をもたせる
 ②七中生として誇りをもたせる

- (1) 生徒一人ひとりが役割をもち達成感を味わえる学校
- ① 学級活動・学年活動・学校行事・部活動などを通し、生徒が輝く場面を作り出す。
 ② 友達の活躍を心から応援する温かい心を表現する場面を作り出す。
- (2) 何事も積極的に取り組む学校
- ① 学習面や特別活動の充実
 ② 生徒会活動の充実
 ③ 部活動の充実
- (3) 友達がたくさんできる学校
- ① 生徒一人ひとりの良さを皆で認める環境
 ② 共同体験の実施
 ③ いじめ：0件を目指す
- (4) 地域の人とのつながりを深める学校
- ① 職場体験（地域密着型）を3日間実施
 ② 地域との交流、祭礼・盆踊りへの参加推進
 ③ ボランティア活動の推進
 ④ **区主催のイベントへの積極的な参加を働きかける。**
- (5) 校歌を愛する学校
- ① 校歌・区歌を歌う機会を多くし、口ずさむようにする。**歌詞の内容を理解させ母校を愛する気持ちを育てる。**
- (6) 各種コンクールなどに積極的に参加する学校
- ① 読書感想文やポスターなどの募集に対し、積極的に働きかけ作品などを応募する。

(7) 生徒の活躍した成果を認め励ます
学校

① 部活動の成果など、朝礼で発表するだけでなく、
掲示物としても讃える。

4 開かれた学校を目指す

今年度の最重点目標：小学校との連携を深める

- (1) 近隣小学校との連携を深め、中1ギャップの解消を図ると共に七中への理解を深める。
 - ① 小・中学校各々の行事や授業、児童生徒連絡会などにおいて、小中の相互交流を行う。
 - ② 年3回のオープンキャンパスを実施し、小学生の授業体験や部活動体験などを行う。
 - ③ 小中連携教育拡大推進委員会と連携協議会を開催し、計画的、円滑な小中連携に努める。
 - ④ **学校公開日等広く広報し、小学校の保護者にも七中に来校する機会を増やす。**
- (2) 家庭、地域社会との連携を大切にし、相互に信頼しあえる関係を目指す。
(地域行事などに生徒・教職員が積極的に参加する)
- (3) 教育課程の公開（土曜授業公開・休日開催の運動会、道徳授業地区公開講座など）
- (4) 施設の開放や地域への協力を努めると共に地域の教育力の活用を図る。
- (5) 地域と連携した体験学習を実施する。（3日間職場体験など）
- (6) 職場体験などを通し、幼児や高齢者などとの交流を図る。
- (7) 「学校評議委員会」を年3回開催する。
- (8) 「学校評価アンケート」を全保護者、学校評議員、全生徒を対象に実施するとともに回収率を高め評価の数値の向上に努める。
- (9) 学校関係者評価を実施する。
- (10) 「学校だより」を毎月1回発行すると共に「学年だより」などを通し、学校からの情報提供に積極的に努める。学校だよりを地域センターなどにも配布し、多くの区民に見ていただく。
- (11) 学校掲示板を活用し、常に区民に学校の様子を伝える。
- (12) 学校ホームページを**毎月4回以上更新し、多くの方に本校を知っていただく。**
- (13) 学校配信システム（e ネット）を活用し、保護者へ情報を適時に送信する。

[D組]

- 1 生徒一人ひとりの理解に努め、その能力や発達段階に応じた目標を設定し、個別指導計画に基づいた教育活動を推進する。そして自立と社会参加を目指す。
- 2 体験的な学習を通し、成就感や達成感を体得させる。
- 3 食育や身体づくりを通し、体力向上を図る。
- 4 通常の学級との交流や共同学習を推進する。
- 5 他校の特別支援学級との交流や共同学習を進める。
- 6 **ICT機器を活用し体力づくりや情報の収集・処理・活用能力を育てる。**

5、本校の研究

- (1) 研究主題「魅力ある学校づくりを目指して ～授業力の向上と生徒理解～」

※以上の教育を実施することにより「本校に入学して良かった」という生徒、並びに「本校に入学させて良かった」という保護者の割合が100%になることを目指す。